

第4章 水害と治水事業の概要

4-1 既往洪水の概要

小矢部川流域は、日本海側特有の多雨地帯に属し、年間降水量は、2,400～3,100mmであり、1月、12月の冬期が最も多く、次いで7月の梅雨期、9月の台風期の順となっている。また大規模な洪水要因のほとんどは台風性によるものである。

主要洪水における降雨、出水及び被害の状況を表4-1に示す。

表4-1 小矢部川流域の主な洪水

洪水年月日	被害概要
明治38年8月	石動町(現小矢部市)等20町村が浸水 堤防破壊1,600間余、家屋の流出破壊13戸、 山崩れ123ヶ所、橋梁流出21ヶ所
大正7年9月	台風による出水 数箇所で堤防決壊 死者1名、床上浸水200戸余、床下浸水無数
大正8年7月	台風による出水 堤防決壊211間 被災家屋516戸
大正11年8月	堤防決壊7ヶ所 行方不明者2名
大正13年2月	融雪による出水 堤防決壊21ヶ所 延長301.5間
昭和8年7月	台風による出水 堤防決壊31ヶ所 橋梁流失8ヶ所 浸水家屋100戸余
昭和28年9月	台風13号による出水 左右岸34箇所で堤防破堤 流量:1,300m ³ /s【津沢】(推定) 死者6名、行方不明2名、負傷者6名、全壊家屋1戸、半壊家屋46戸、 流出家屋5戸、一部破壊172戸、床上浸水3,474戸、 床下浸水5,712戸、浸水面積3,800ha
昭和38年6月	台風2号による出水 左右岸数箇所で堤防破堤 流量:410m ³ /s【津沢】 1,160m ³ /s【長江】 死者2名、負傷者2名、半壊家屋1戸、床上浸水111戸 床下浸水983戸、浸水面積4,900ha
昭和39年7月	梅雨前線による出水 流量:1,210m ³ /s【津沢】 全壊・流出家屋2戸、半壊・床上浸水1,859戸、床下浸水4,411戸、 浸水面積4,220ha
昭和40年9月	台風24号による出水 流量:1,190m ³ /s【津沢】 家屋や田畑の浸水多数
平成2年9月	台風19号による出水 流量:950m ³ /s【津沢】 床下浸水29戸、浸水面積96ha
平成10年9月	台風7号による出水 流量:970m ³ /s【津沢】 住宅半壊1戸、床上浸水52戸、床下浸水674戸、浸水面積267ha

出典：富山工事事務所六十年史他

【昭和 28 年 9 月 25 日】

台風 13 号による洪水。台風の影響で暴風雨となり雨量は山間部で 200～300mm 以上に達し河川は増水し、左右岸数箇所では堤防が決壊、甚大な被害をもたらした。死者 6 名、行方不明者 2 名、負傷者 6 名、全壊家屋 1 戸、半壊家屋 46 戸、流出家屋 5 戸、一部破壊 172 戸、床上浸水 3,474 戸、床下浸水 5,712 戸、浸水面積 3,800ha。



落橋した清水橋（小矢部市津沢）



一面冠水した集落（旧福岡町荒屋敷）

【昭和 38 年 6 月 4 日】

台風 2 号による洪水。死者 2 名、負傷者 2 名、半壊家屋 1 戸、床上浸水 111 戸、床下浸水 983 戸、浸水面積 1,900ha。



落橋した国条橋（高岡市長江）



高水敷に置かれたバス（高岡市）

【昭和 39 年 7 月 18 日】

梅雨前線による洪水。全壊・流出家屋 2 戸、半壊・床上浸水 1,859 戸、床下浸水 4,411 戸、浸水面積 4,220ha。

【平成 2 年 9 月 20 日】

台風 19 号による洪水。床下浸水 29 戸、浸水面積 96ha。

【平成 10 年 9 月 22 日】

台風 7 号による洪水。台風 7 号の接近により 21 日夕方前より雨が降り始め、台風 7 号が富山県を通過する 22 日 18 時前後にかけて非常に強い降雨となった。特に 22 日 17 時～19 時の 3 時間で、渋江川上流の砂子谷雨量観測所では 141mm（観測史上最大）、子撫川上流の淵ヶ谷雨量観測所でも 111mm（観測史上最大）を記録するなど、短時間に記録的な豪雨となった。住宅半壊 1 戸、床上浸水 52 戸、床下浸水 674 戸、浸水面積 267ha。



浸水状況（高岡市江尻地先）



浸水状況（高岡市荻布地先）

4 - 2 治水事業の沿革

小矢部川における近代的な治水事業は、かつての小矢部川が河口部の高岡市伏木付近で庄川の左支川として合流し、庄川の洪水による逆流で小矢部川が破堤を繰り返していたため、明治16年から内務省直轄工事として、沿川における低水工事とともに庄川の改修工事を実施したことに始まる。明治33年から庄川第二期改修工事（新川開削工事）が実施され、当時合流していた庄川からの逆流による災害防止を目的に庄川との分離工事を実施し、大正元年に竣工した。この分離工事により、小矢部川は単独水系となり、庄川の逆流による被災はなくなった。

その後、昭和8年7月洪水を契機に、昭和9年に津沢地点における計画高水流量を $1,100\text{m}^3/\text{s}$ とし、小矢部市から高岡市までの区間の幹川40km、支川5kmで築堤等の改修工事に着手した。さらに、昭和28年には、改修区間を小矢部市津沢より河口までの幹川33.6km及び支川^{しづえ}、^{こなで}子撫川、^{せんぼ}千保川等を含め38.0kmとするとともに、上流部は中小河川改修事業として富山県において施工することとなった。しかし、昭和28年9月の台風13号により計画高水流量を上回る大出水に見舞われ、上・中流部において34箇所の破堤・越水により、住宅、農耕地、道路、橋梁及び下流の高岡市内工場地帯等に甚大な災害を被った。この洪水を契機に、昭和30年12月に津沢地点における計画高水流量を $1,300\text{m}^3/\text{s}$ に改定した。さらに、昭和43年には一級河川の指定に伴い、同年に計画高水流量 $1,300\text{m}^3/\text{s}$ の工事実施基本計画を策定した。その後、昭和54年には改修区間を河口から小矢部市^{かもしま}鴨島地先までの35.24kmとし、昭和63年には、津沢、^{みのり}箕輪地区における大規模引堤による計画の見直しを行った。

また、近年では平成2年9月、平成10年9月洪水等度重なる計画流量相当の洪水により、護岸の欠壊や支川での破堤、内水による浸水被害等、多数発生している。

現在、堤防の断面不足解消のための築堤、河積確保のための河道掘削及び、護岸の整備等を実施している。

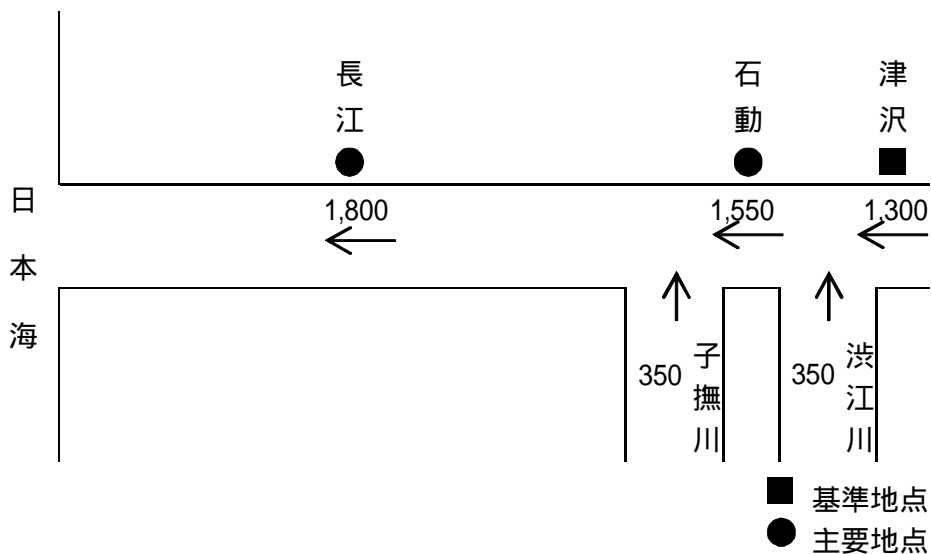


図 4-1 小矢部川計画高水流量図

小矢部川・庄川分離工事（明治 33 年～大正元年）

- ・洪水防御と河口における舟運の確保を目的として両川の本流分離工事を実施
- ・小矢部川河口（伏木富山港）への影響を軽減

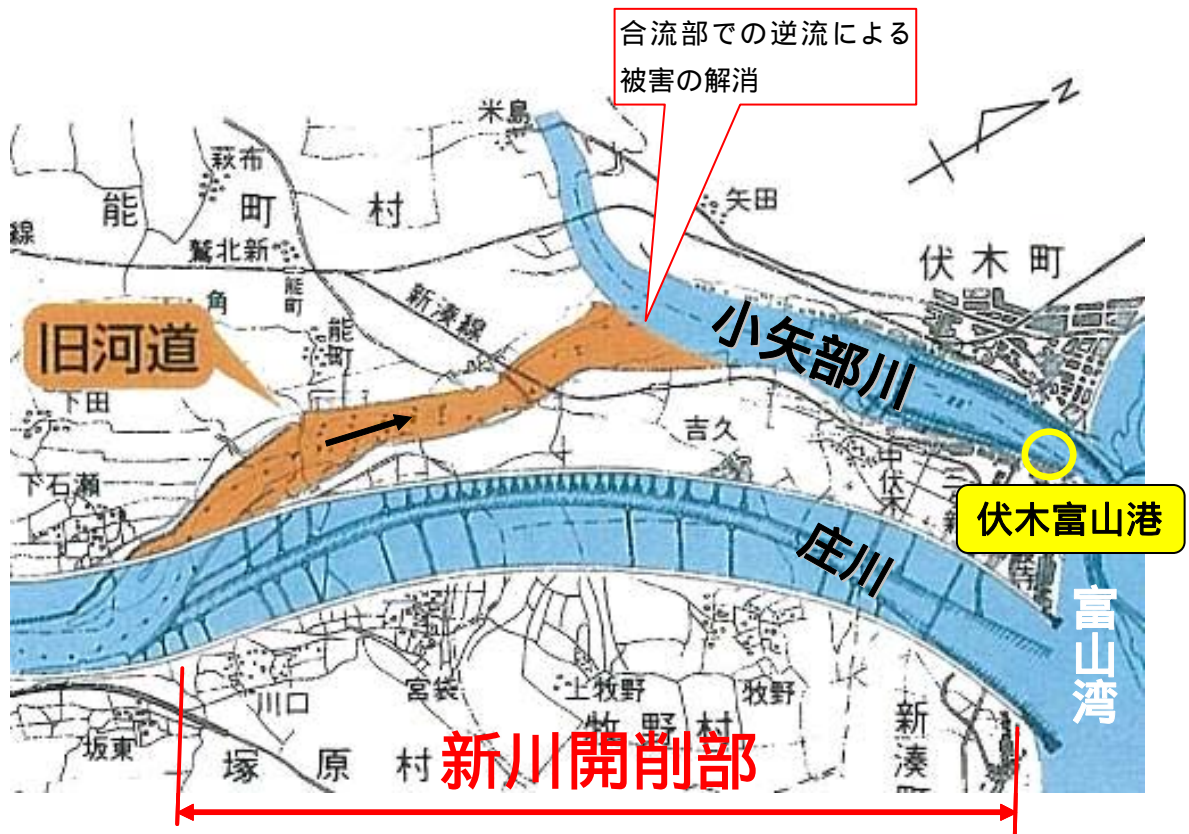


図 4-2 小矢部川・庄川河口分離工事

表 4-2 治水工事年表

年月	工事履歴
明治 34 年(1901 年)	富山県告示で千保川合流点から庄川合流点までを庄川の支川として認定される。
大正元年(1912 年)	庄川の新分水路開削工事により分離。独立河川となる。
昭和 4 年(1929 年)	河川法適用河川に認定される。
昭和 9 年(1934 年)	津沢地点の計画高水流量を 1,100m ³ /sとし、幹線 40km、支川 5kmの改修に着手。
昭和 30 年(1955 年)	昭和 28 年の大洪水を受け、計画高水流量を 1,300m ³ /sに改訂。
昭和 42 年(1967 年)	小矢部川が一級河川に指定され、河口～34.2km 及び支川渋江川の合流点～2km 区間が直轄管理区間となる。
昭和 43 年(1968 年)	工事实施基本計画が策定される。
昭和 54 年(1979 年)	改修区間を河口～35.4km とする。
昭和 57 年(1982 年)	津沢・箕輪地区改修に着手。河積確保のため築堤及び引堤を実施。
昭和 58 年(1983 年)	小矢部大堰が完成

津沢改修（昭和 57 年～平成 5 年）

- ・ 流下能力の向上を図るため、津沢地区において引堤による河道拡幅を実施（54 戸が移転）

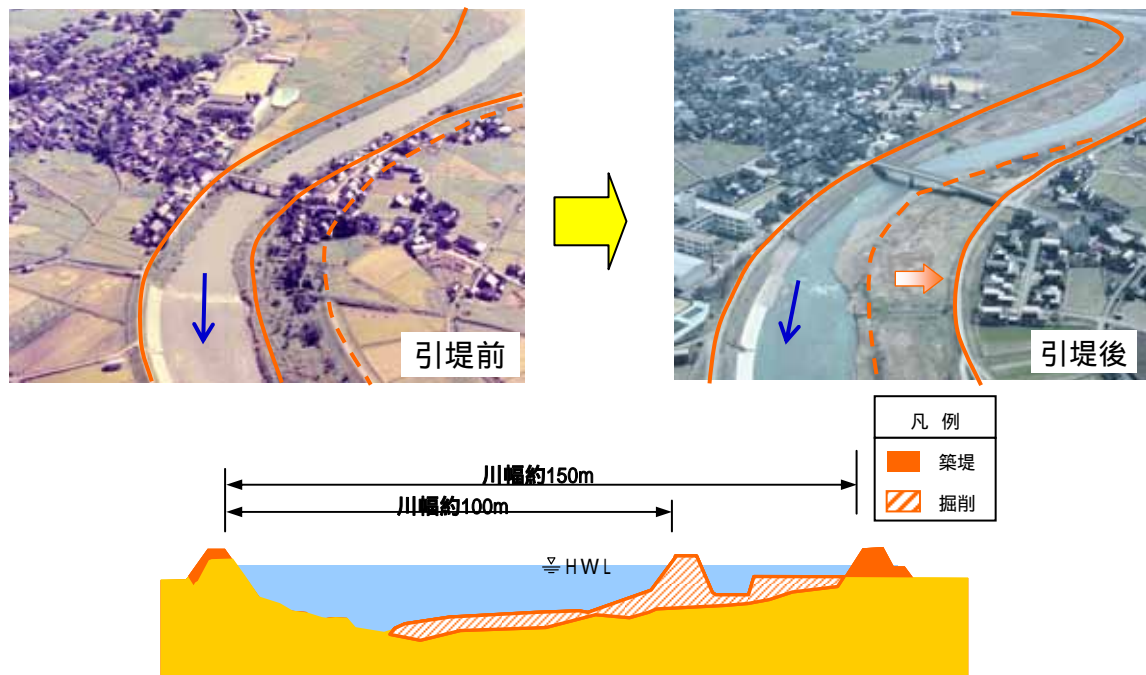


図 4-3 津沢改修